

ICT を活用した英語教育

— スマートフォン・タブレットを活用した英語教育の実践 —

糸山 昌己

1. はじめに

英語などの外国語の習得においては、個々の学習者の発達段階に合った言語材料と適切な言語活動を与えることが重要である。つまり、個々の学生のレベルに応じた指導が本来不可欠なのである。しかも、昨今の大学生の英語に関する能力の多様性を考えても、単なる一斉授業だけではそれは無理である。そこで、個別学習に向いているコンピュータなどの情報機器の活用でそれを補う必要性が出てきた。

糸山 (2005) では、インターネットに接続できるコンピュータさえあれば、場所や時間を選ばずいつでも効率的な英語学習が実践できることを論じた。糸山 (2011) では、学習者が各々の能力、習熟度、興味に応じて自ら学習することが可能な、個別学習に向いている携帯情報機器の中で代表的なものを、教育利用といった観点からいくつか取り上げ、特に、iPad を中心とした携帯情報機器の教育利用について論じた。また、糸山 (2013) では、スマホ時代を代表する高機能携帯情報端末であるアップルの iPhone や iPad で利用できる「音声アシスタント機能 Siri」の英語学習への可能性について考察を行った。

iPhone を筆頭に、アンドロイド携帯を含めたスマートフォン（高機能携帯電話＝スマホ）やタブレットなどが普及し、「スマホ時代」とまで言われるようになった。ネットワーク環境の進化と共に、個人で（一人一人が）自分専用のスマホを活用して、時と場所を選ばずにインターネットや学習ソフト・アプリを利用することができ、通学途中でさえも英語の学習を行うことが容易になってきている。つまり、個別学習を可能にする環境がもうすでに整っていると言ってもよい。しかし、実際に、学習者がその「恵まれた」環境を有効的に活用しているかは疑わしい。

本論では、これまでいろいろな機会に考察してきた個別学習においてスマホ・タブレットを活用するという観点からではなく、教室内での一斉学習において個人が所有するスマホ・タブレットをどのように活用するかという観点から、実際に今年度筆者が担当した「外国語コミュニケーション（英語）」という授業で行ったスマホ・タブレットの活用事例の実践報告を通して、ICT（Information and Communication Technology）を活用した英語教育の可能性を論じていきたい。

2. 「外国語コミュニケーション（英語）」

今年度筆者が担当した「外国語コミュニケーション（英語）」（以下、「英語の授業」）は資格取得のために必要な1年次開設の選択必修科目である。選択必修科目であるが、1学年（4クラス）ほぼ全員が履修するという大人数の学生を対象とする科目になっている。一番多いクラスで47人もの学生が今年度履修しているために、週1回90分の授業（前期15回、後期15回）では、個別対応しながら学生の外国語コミュニケーション力を高めるのは容易ではない。

CALL 教室での授業であれば効率的に個別学習を取り入れた教育も考えられるが、他の学部・学科との関係で筆者担当の4クラス全クラスがCALL 教室を使用することは現実的にはほぼ不可能である。そこで、大人数による外国語の授業ということで、最低限プロジェクターが使用できる教室での授業を行いたいという筆者の要望を聞き入れていただき、4クラスとも前後期ともプロジェクターが使用できる教室での授業が可能になった。

以下、プロジェクターが使用できる教室での ICT を活用した英語の授業の概要、及び授業方法を述べていきたい。

3. 授業方法の概要

授業方法の大まかな流れは以下のようになる。

- ①教科書（テキスト）の PDF 化
- ②PDF ファイルのタブレット（iPad）への取り込み
- ③プロジェクターによるテキスト提示
- ④プロジェクターによる課題提示
- ⑤メールによる学生の課題提出（学生所有のスマホ、携帯電話などを使用）
- ⑥メールをプロジェクターに提示しながらの個別指導（コメント）
- ⑦タブレットに書き込みを行いながらの授業展開

3.1 教科書（テキスト）の PDF 化

まず、授業で使用する教科書（テキスト）を事前にスキャナーで読み取り、PDF ファイル化し、タブレット（iPad）で使用できるようにした。従来の英語（だけではないが）の授業では、学生に授業で使用する教科書を購入させ、その教科書を学生と教師がそれぞれ個別に自分の教科書を見ながら行ってきた。教師は適宜、必要に応じて、黒板（あるいは、ホワイトボード）にその教科書の一部を板書しながら授業をしてきた。学生、教師とも同じ教科書を持っているにも関わらず、黒板に板書するという手間（時間）があった。そこで、授業で使用する教科書（テキスト）をスキャナーで読み取り、その PDF ファイルをタブレットでプロジェクターに提示することによって、板書するという手間（時間）を省き、さらには、タブレット上でスタイラスペンを用いて（様々な色で）書き込みを行いながら、授業を展開することができるようになった。

3.2 PDF ファイルのタブレットへの取り込み

スキャナーで読み込んだ教科書の PDF ファイルをタブレットに取り込むのに、iPad を使用する場合には、iTunes を介して、PDF ファイルの表示アプリである GoodReader（有料アプリ）、GoodNotes（無料アプリ）などに取り込む方法が一般的であろう。筆者は、教科書の PDF ファイルなどは、オンラインストレージサービスの一つである Dropbox（ドロップボックス）に保存して、パソコン、スマホ、タブレットでデータの共有や同期を行っている。GoodReader への取り込みはこの Dropbox を介して行った。

3.3 プロジェクターによる課題提示

教室では、iPadに取り込んだテキストをプロジェクターで学生に適宜提示しながら授業を行った。図1-1はテキストの一部をGoodReaderで表示したものである。GoodReaderなどのアプリで表示した場合、iPadの画面をタッチすることで図を拡大することができる(図1-2)。また、iPadの画面上、オーバーレイで文字などが書き込める利点もある。

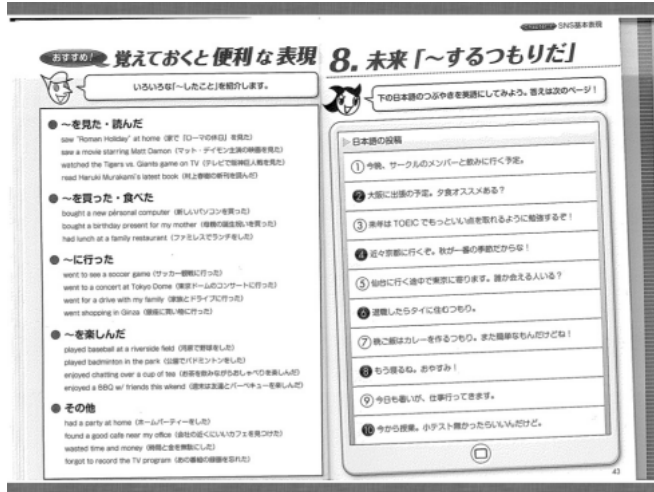


図1-1 iPadでのテキストのPDFファイルの表示例

おすすめ! 覚えておくと便利な表現

いろいろな「～したこと」を紹介します。

- **～を見た・読んだ**
 - saw "Roman Holiday" at home (家で「ローマの休日」を見た)
 - saw a movie starring Matt Damon (マット・デイモン主演の映画を見た)
 - watched the Tigers vs. Giants game on TV (テレビで阪神巨人戦を見た)
 - read Haruki Murakami's latest book (村上春樹の最新刊を読んだ)
- **～を買った・食べた**
 - bought a new personal computer (新しいパソコンを買った)
 - bought a birthday present for my mother (母親の誕生日プレゼントを買った)
 - had lunch at a family restaurant (ファミレスでランチをした)
- **～に行った**
 - went to see a soccer game (サッカー観戦に行った)
 - went to a concert at Tokyo Dome (東京ドームのコンサートに行った)
 - went for a drive with my family (家族とドライブに行った)
 - went shopping in Ginza (銀座に買い物に行った)
- **～を楽しんだ**
 - played baseball at a riverside field (河原で野球をした)

図1-2 テキスト(図1-1)の一部を拡大した表示例



図2 学生のメールでの課題回答例

3.4 メールによる課題提出

授業では、教科書の課題の中から2、3つ選択し、その問題を学生にプロジェクターに提示し、その回答を学生にメールで提出してもらう形態を取った。そのための前提として、もちろん、受講学生全員がスマホ(携帯電話などを含む)でメールができることが必要である。授業の始めにメールができるかどうかの確認を学生に行ったが、予想通り、全員がスマホ(携帯電話などを含む)を所持しており(つまり、スマホを持たない学生は一人もいない)、授業でメールを行うことが可能であった。授業時に充電が切れている等の理由でメールができない学生に対しては、回答用紙を配布し、個別に対応することにした。

学生の課題の回答は、筆者が用意したアドレス(gmailなどのフリーメールで授業専用取得したもの)に学生所有のスマホからメールで送って提出するようにした。その際、メールに名前を書かない限りは、プロジェクターにメールの本文を映し出しても、瞬時にはだれの回答かは分からないようにした。ただ、後で、どの学生の回答かがわかるようにA15などのように、クラスと学生番号だけは件名かメールの本文に書くように指示した。英語でメールを書くということが今まで無かったせいか、初めは回答の提出にも戸惑っていたが、すぐに英語での打ち込みも速くなってきた。

届いたメールを順次プロジェクターに提示しながら、コメントを個々に行うことで、大人数でのクラスであっても、また(CALL教室ではなく)普通教室(プロジェクターはあるが)であっても、個別指導が可能になった。また、同時に、クラスメイトの回答を見ることで、いろいろな表現が可能であること、自分と同じ間違いをする人がいること、など様々な発見もあり、個別指導であると同時に、学生全体としては一斉指導の側面もあった。

また、このメールの活用は課題提出のためだけでなく、復習と実践的な英語トレーニングとしても活用している。学生には、授業外でもできる限り、授業で扱った表現などを使って筆者にメールを送るように指示し、英語の実践を進めている。一部の学生はほぼ毎日英語でのメールを送ってくれるほどになった。週1回の授業だけでは、英語コミュニケーション力



図3 学生の授業外のメール例

を養成することはなかなか容易ではないが、日々の英語でのメールでのやりとりはそれを補完するものの一つだと思われる。それこそ、電車の中でも、カフェテリアで食事中でも、デパートでウィンドー・ショッピング中でも、夏休み中でも、いつでもメールが送れる環境にあるわけだから、ICTを活用した個別学習が可能であると言えよう。もちろん、学生のメールに対しては、出来るだけすぐに（英語での）返信を行うよう努めている。

なお、この授業でメールを使うことに対する学生の感想として、「他の人のいろいろな回答を見ることができ、参考になった、刺激になった、面白かった。」「すぐに自分の回答にコメントしてもらえて、嬉しい、楽しい。」「自分がわからなかったところがすぐに理解できる。」「携帯を使った授業、今まで無かった。」「授業中に携帯電話を使うなんて、新鮮、面白い。」など肯定的な感想がほとんどであった。

3.5 iPadに書き込みを行いながらの授業展開

スマホを使ってのメールでの課題提出を2、3問行った後に、課題全体をデジタルではなく紙のプリントで用意し、今度は筆記用具を用いて、実際に手を使って学生に書き込みをさせて回答をさせた。その後、テキストをiPadでプロジェクターに提示し、下線を引いたり、書き込みをしながら説明を行い、学生には自己採点、自己訂正を行わせた。つまり、デジタルだけでなく紙とペンというアナログも併用しながら、より学生の理解、習熟になるよう授業展開を行った。

もちろん、実際の授業では、上記で述べたテキストだけでなく、別の教材（DVDなどの視聴覚教材など）を併用しながら授業を行っている。その際にも、プロジェクターで、PC、iPadなどで教材を提示しながら授業展開を行っている。

4. おわりに

本論では、ICTを活用した教育、特に、スマホなどの携帯情報端末を活用した英語教育

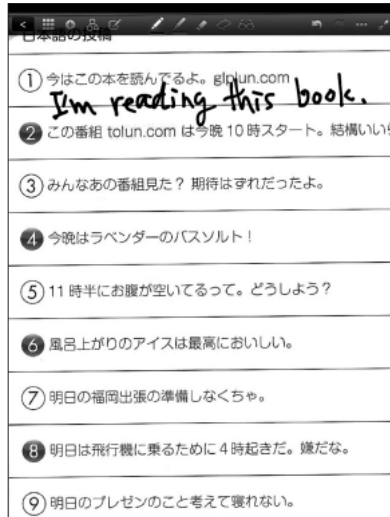


図4 iPadでのテキストへの書き込みの表示

の実践例を報告した。教科書（資料など）をPDF化し、iPadを用いることで、学生に直接明示的に提示でき、教師が教科書のどこを話しているのかなど、学生が教師と同じ視点で教科書を見ながら受講できるようになった。また、iPadを使うことによって、テキストの重要な箇所を拡大したり、必要事項をオーバーレイで書き込みを行いながら表示する、重要な箇所に線を引く、など手軽に、効率的に授業展開を行うことが可能になった。スマホを使ってメールでの課題回答手段を取ることで、回答後、瞬時に個別にコメントすることができるようになり、大人数クラスでの個別指導も可能になった。また、個別の回答ではあるが、プロジェクターに表示することで、クラス全体で個々の回答の共有化もでき、その効果も高いものとなった。授業外でも、メールによって、英語トレーニングを平易に日々実践できるようになった。

筆者は、通常の授業だけでなく個別にも学生に携帯情報端末の有効性を示しているが、学生へ学習の機会を十分に与えながらの検証はまだ十分だとは思われない。今後も、教室内外においてスマホ・タブレットなどの携帯情報端末を活用することによって、どのように英語教育の可能性が広がるのかを引き続き検証していくと同時に、その実践を試みていきたい。

参考文献

- 糸山昌己 2005. 「e-learning時代の英語学習」『東京成徳短期大学紀要』第38号、P. 17～25.
- 糸山昌己 2011. 「iPad時代の英語教育」『東京成徳短期大学紀要』第44号、P. 12～19.
- 糸山昌己 2013. 「スマホ時代の英語教育」『東京成徳短期大学紀要』第46号、P. 63～69.
- 糸山昌己・馬場哲生・大和田栄 1996. 「英語教育における人とコンピュータ」『東京成徳短期大学紀要』第30号、P. 11～26.
- 糸山昌己・大和田栄 1999. 「インターネットを利用した英語教育の試行と研究」『東京成徳短期大学紀要』第32号、P. 1～18.
- 賀来 亨、曾我聡起 2012. 「授業評価にみるiPadを使用した講義に関する考察」2012PCカンファレンス ポ

スター発表資料.

- 賀来 亨、曾我聡起 2013. 「iPad を用いた講義の改善に関する検討Ⅱ」2013PC カンファレンス ポスター発表資料.
- 鳥居隆司 2006. 「iPod の教育への活用・実践そして可能性」『Computers&Education』第20号、P. 12～17.
- 長谷川旭 他 2012. 「大学教育でのタブレット端末の利用とその効果」『Computers&Education』第31号、P. 30～35.
- 寺尾 敦 2012. 「ICT を活用して深い学習を支援する」『Computers&Education』第33号、P. 28～33.
- 矢野耕平 2010. 『iPad で教育が変わる』毎日コミュニケーションズ.
- 山崎吉朗 2008. 「e-learning を活用した語学学習の実践と学習効果検証」『Computers&Education』第25号、P. 24～29.
- 吉田晴世 他 2008. 『ICT を活用した外国語教育』東京電機大学出版局.